

2019年12月1日(日)朝10:10～

降誕前第4、役員会等

12月第1待降節第1共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：マリアへの告知(28～)

聖書:ルカ 1章26～38節

＜口語訳＞

新約聖書83頁

ルカ 1章26～38節

＜新共同訳＞

新約聖書100頁

ルカ 1章26～38節

＜新改訳第3版＞

新約聖書106～107頁

ルカ 1章26～38節＜塚本訳＞

新約聖書166～167頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇新約聖書の**ルカ福音書**は、**神の民の救い**を神の福音として告げた書です。

◇本日は**クリスマス待降節第1主日**です。

⇒本日の「**ルカ福音書1章26～38節**」は、主が処女マリヤ胎内に「**罪からの救い主**」を宿したと告知した箇所です。

◇「**ルカ福音書1章26～38節**」は、**処女マリヤ**が、天使ガブリエルの告知を「かしこまりました。わたしは主の召使、お言葉のとおりになりますように」と受け入れた時、天使はマリヤを離れていきました。

⇒「**処女マリヤの懐胎**」には、**マリヤ自身**が戸惑いしましたが、当時、女性は12歳になると結婚ができる慣習がありましたので、結婚の不安ではなく、「**処女のマリヤ**」が、「**懐胎した**」ことや社会的偏見への戸惑いでした。

⇒僅か12歳の少女にとって、状況を正確に判断し、どう行動するかが難しいことでした。

⇒**神**は、①天使を送り(26)、②懐胎の原因と理由(30～33)を知らされ、③聖霊による懐胎と高齢の親類エリサベツの懐胎を告げた。

本論；

◇本日、ルカ書1章26～38節から主の使信に  
思い・心をとめます。

◆ルカ1章26～38節；ルカは、「マリヤの処女  
懐胎」によって、神の御子イエス・キリスト様  
が、誕生されたことを語っています。

◇26～38節；塚本訳◆イエスの誕生のお告げ  
「26 (エリサベツがみごもってから)六か月目  
に(同じ)天使ガブリエルが、神からガリラヤ  
のナザレという町の一人の乙女に遣わされ  
た。

27 この乙女はダビデ(王)家の出であるヨセフ  
という人と婚約の間柄で、名をマリヤといっ  
た。

28 天使は乙女の所に来て言った、「おめでと  
う、恵まれた人よ、主があなたとご一しょ  
だ！」

29 マリヤはこの言葉にびっくりして、いったい  
この挨拶は何事であろうと考えまどうた。

30 天使が言った、「マリヤよ、恐れることはな  
い。神からお恵みをいただいたのだから。

31 見よ、あなたは子をさずかり、男の子が生

まれる。その名をイエスとつけよ。

- 32 その子は大いなる者となり、いと高きお方の子と呼ばれる。神なる主は先祖『ダビデの王位を』彼に与え、
- 33 彼は『永遠に』ヤコブの家の『王となり、』その国は果しなく続くであろう。」
- 34 マリヤが天使に言った、「まだ夫を知らぬわたしに、どうしてそんなことがありますでしょうか。」
- 35 天使が答えた、「聖霊があなたの上に臨み、いと高きお方の力があなたを掩いかくすであろう。それゆえ(あなたから)生まれるものは、『聖』であり、神の子『と呼ばれる。』
- 36 実はあなたの親類のエリザベツも、あの老年で、男の子をさずかったのだ。石女と言われていた女が、今月はもう六月になっている。
- 37 『神には何一つ出来ないことはない』のだから。」
- 38 マリヤは言った、「かしこまりました。わたしは主の召使、お言葉のとおりになりますように。」天使はマリヤをはなれ去った。と、

「**処女マリヤ**」は、御使いの告知を受けたのです。

◇**26～33節**；「(エリサベツがみごもってから)六か月目に(同じ)天使ガブリエルが、神からガリラヤのナザレという町の一人の乙女に遣わされた(26)」、「この乙女はダビデ(王)家の出であるヨセフという人と婚約の間柄で、名をマリヤといった(27)」、「天使は乙女の所に来て言った」、「おめでとう、恵まれた人よ、主があなたとご一しょだ！(28)」、「マリヤはこの言葉にびっくりして、いったいこの挨拶は何事であろうと考えまどうた(29)」、「天使が言った」、「マリヤよ、恐れることはない。神からお恵みをいただいたのだから(30)。見よ、あなたは子をさずかり、男の子が生まれる。その名をイエスとつけよ(31)。その子は大いなる者となり、いと高きお方の子と呼ばれる。神なる主は先祖『ダビデの王位を』彼に与え、彼は『永遠に』ヤコブの家の『王となり、』その国は果しなく続くであろう。」と、**ルカは、御子イエス・キリスト様の誕生の経緯**を語っています。

⇒「おめでとう、恵まれた人よ、主があなたとご一しょだ！」は、喜びの告知(知らせ)であることを宣言しています。すなわち、福音の知らせでした。

⇒併し、「マリヤはこの言葉にびっくりして、いったいこの挨拶は何事であろうと考えまどうた(29)」と、**マリヤ**を始め、福音を受け取る側には、恐れ、不安、戸惑い等がありました。

⇒福音は、第三者への告知であると無関心ですが、自分に関する事、殊に生死に関わる事には、「恐れ、不安、戸惑い」を呼び覚ますのです。

⇒「恐れ、不安、戸惑い」を一掃してくれるのは、「情報と確信がもてる知恵・知識」です。

⇒殊に、**マリヤ**にとっては、**ヨセフ**のやさしいことばよりも、「その子は大いなる者となり、いと高きお方の子と呼ばれる。神なる主は先祖『ダビデの王位を』彼に与え、彼は『永遠に』ヤコブの家の『王となり、』その国は果しなく続くであろう」という**神の保証**でした。

⇒「**神の保証**」が、心と**神信仰**の支えです。

◇**34～38節**；「マリヤが天使に言った」、「まだ夫を知らぬわたしに、どうしてそんなことがありますでしょうか(34)。」「天使が答えた」、「聖霊があなたの上に臨み、いと高きお方の力があなたを掩いかくすであろう。それゆえ(あなたから)生まれるものは、『聖』であり、神の子』と呼ばれる。』(35) 実はあなたの親類のエリザベツも、あの老年で、男の子をさずかったのだ。石女と言われていた女が、今月はもう六月になっている(36)『神には何一つ出来ないことはない』のだから(37)。」、「マリヤは言った」、「かしこまりました。わたしは主の召使、お言葉のとおりになりますように。」「天使はマリヤをはなれ去った」(38)と、**神の保証**を確信した者には、**神は、①「聖霊があなたの上に臨み、いと高きお方の力があなたを掩いかくすであろう。それゆえ(あなたから)生まれるものは、『聖』であり、神の子』と呼ばれる。』**と、さらなる**神のことばの確信**を与え、②「実はあなたの親類のエリザベツも、あの老年で、男の子をさずかったのだ。石女と言われていた女が、

今月はもう六月になっている」と、**神信仰の共感者**に備えて下さるのです。

⇒**神信仰の共感者**は、年齢、性別、所属団体等の垣根を越えて、与えられるものです。

⇒イザヤ書7:14;

それゆえ、主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる。見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルととなえられる



## 結論；

◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇新約聖書の**ルカ福音書**は、**神の民の救い**を神の福音として告げた書です。

⇒本日の「**ルカ福音書1章26～38節**」は、主が処女マリヤ胎内に「**罪からの救い主**」を宿したと告知した箇所です。

◇「**ルカ福音書1章26～38節**」は、**処女マリヤ**が、天使ガブリエルの告知を「かしこまりました。わたしは主の召使、お言葉のとおりになりますように」と受け入れた時、天使はマリヤを離れていきました。

⇒「**処女マリヤの懐胎**」には、**マリヤ自身**が戸惑いしましたが、当時、女性は12歳になると結婚ができる慣習がありましたので、結婚の不安ではなく、「**処女のマリヤ**」が、「**懐胎した**」ことや社会的偏見への戸惑いでした。

⇒僅か12歳の少女にとって、状況を正確に判断し、どう行動するかが難しいことでした。

⇒**神**は、①天使を送り(26)、②懐胎の原因と理由(30～33)を知らされ、③聖霊による懐胎と高齢の親類エリサベツの懐胎を告げた。

「マリヤよ、恐れることはない。神からお恵みを  
いただいたのだから  
見よ、あなたは子をさずかり、男の子が生まれ  
る。その名をイエスとつけよ  
その子は大いなる者となり、いと高きお方の子  
と呼ばれる。神なる主は先祖『ダビデの王  
位を』彼に与え  
彼は『永遠に』ヤコブの家の『王となり、』その  
国は果しなく続くであろう  
「聖霊があなたの上に臨み、いと高きお方の力  
があなたを掩いかくすであろう。それゆえ  
(あなたから)生まれるものは、『聖』であり、  
神の子『と呼ばれる。』  
『神には何一つ出来ないことはない』のだから

⇒詩篇145:13;

あなたの国はとこしえの国です。あなたの  
まつりごとはよろずよに絶えることはありません。